

The 41st

SUZUKI METHOD GRAND CONCERT



主催 **慧眼才能教育研究会**

後援／東京都教育委員会・毎日新聞社・日本経済新聞社・高知新聞社

東京新聞・日本テレビ・TBS・フジテレビジョン

〒110 朝日ビル1F 東京

“でもね、私はバイオリンだけを
教えているつもりはないんですよ。
その子の能力を引き出したい、
美しいものの心がわかる子に
育ってほしいと願っているんです。”

鈴木 鎮一

(トップ・インタビューより)

“I teach pupils not only to develop
their violin skill but also to develop
their talent, that is to be people
who can appreciate the heart
of beauty.”

Dr. Shinichi Suzuki

(from Top Interview)

The 41st

育てよう 未来をひらく 子供たち

才能教育全国大会 3,000人の子供たちによる クラシックコンサート

SUZUKI METHOD GRAND CONCERT



1995.3.27日 2:00pm 日本武道館 [東京・九段]

主催  鈴木才能教育研究会

後援 / 東京都教育委員会・毎日新聞社・日本経済新聞社・
産経新聞社・東京新聞・日本テレビ・TBS・フジテレビジョン・
テレビ朝日・テレビ東京

第1部 卒業式(午後1時)/Part 1 Graduation Ceremony(1:00pm)



祝辞を述べる鈴木鎮一先生
Greeting by Dr. Shinichi Suzuki, president.



卒業証書授与
Presentation of Certificates.

卒業演奏
Graduation Performance.

第2部 グランドコンサート(午後2時)/Part 2 Grand Concert(2:00pm)



100人の子供達による
チャイコフスキーのコンチェルト
One hundred children playing
Concerto by Tchaikovsky.



ピアノ科の演奏/Piano



フルート科の演奏/Flute





箏とバイオリン Koto and Violin



バイオリン科の演奏 Violin



チェロ科の演奏 Cello



弦楽合奏 String ensemble





3000人の子供達によるフィナーレ / Finale by three thousand children

世界中のどの子供も育つ教育法

鈴木 鎮一



FOR ALL CHILDREN WORLDWIDE : The Best Method of Education

Shinichi Suzuki

0歳からでも、優れた感覚の人に育てることが出来るのです。どの幼児の能力をも立派に育てることの出来る、音楽の教育より以上の教育が、一体ほかにあるのでしょうか。

私は地上の総ての子供たちの生命の、大いなる力と働きを知ったために、五十数年に亘って、先ず音楽でどの子も高く育てて、こうして社会に訴えつづけているのです。

事実、能力は生まれつきではなく、育て方が正しければ、どの子も実に能力が立派に育つことをはっきりと知り、実証しているわけです。

私共のこの教育法の革命運動は、「人間教育」を目的としている運動です。音楽の専門家を目指すものではありません。その音楽によって育てられた子供たちは、人柄の美しさと能力が育つので、学校での成績は、当然最も優秀です。それは、五十年来の明らかな事実です。

教育の革命として「スズキメソッド」は今や全世界に拡がりつつあります。その教育法は、世界中の子供たちがすくすくとよく育てゆく母国語の教育法を、そのままに行っているのです。世界中のベビーが、0歳から正しく人間として教育される時代が、数百年後には必ず来ることでしょう。皆様の今日のご来場に感謝致します。どうぞ三千名の子供たちの大合奏をお聞き下さいませ。

From birth, every child on EARTH is born with fine senses which are developed through education. What better method for fostering these developing senses in all children, than through music?

For over fifty years, since I became aware of the great power, the life force, bestowed upon every child on EARTH, I have not only been working to educate children through music, but also stimulating the public to understand its significance: human ability is not predetermined. Depending on the way we educate them, we know and have proven that children will be weak minded or brilliant.

Our movement, in revolutionizing the education method, focuses on "human" education: it is not intended to solely produce musicians. We have seen children develop fine personalities as well as excellent abilities through this revolutionary method. We are not surprised nor wonder that the children do well in school (in other areas of study).

The "Suzuki Method" is now accepted world wide. The method is based on the fact that children easily and naturally assimilate their mother tongue.

Someday, in the future, I believe that all children, worldwide, will from their birth benefit from the right method of education.

Thank you for joining us today as we listen to this grand concert which is being performed by three thousand children.



インディアナ大学 教授
チェリスト
堤 剛

Professor of
University of Indiana
Celest
Tsuyoshi Tsutsumi

アメリカを本拠に国際的に活躍。名実ともに日本を代表するチェリストである。

1942年東京生まれ。幼少から父の手ほどきを受け、故藤藤秀雄に師事。8歳で最初のリサイタルを開き、15歳で日本音楽コンクール第1位・特別賞受賞。桐朋学園高校音楽科を卒業後インディアナ大学に留学、J.シュタルケルに師事。21歳よりシュタルケルの助手を務め、同年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位に輝く。65年インディアナ大学より「アーティスト・ディプロマ」を受ける。西オンタリオ大学教授、イリノイ大学教授を経て、88年秋より母校インディアナ大学教授となる。70年鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)、同年度芸術祭優秀賞、73年ベルギーのイザイ財団よりイザイ・メダル、80年度芸術祭優秀賞およびレコード・アカデミー賞。87年モービル音楽賞、NHK交響楽団有馬賞。93年「堤剛プロデュース」シリーズを含む意欲的な業績に対して、日本芸術院賞を受賞。著書に「私のイリノイ日記・チェロとともに」がある。

第41回スズキメソッド・グランドコンサートにお集まりの皆様本当にお目出度う御座居ます。今風に云わせて頂ければこれは大ビッグイベントな訳ですが、グランドコンサートの特長はそれが「ビッグ」であるのみでなく高い精神性に裏打ちされた「グレートイベント」であることでしょう。これは「鈴木先生の教えを生かして素晴らしい音楽の心を表現したい」という皆様のひたむきな気持ちの輪の拡がりがある故に可能になったもののように思えます。

グランドコンサートのような集まりは世界中捜してもありません。会場など諸般の事情が許せば参加なさりたい方はもっともっと増えるでしょう。皆が一生涯懸命に勉強し、練習した曲と一緒に奏く時、それは音量とか音質を越えた音楽の熱気となります。私はここにこそ音楽作りの原点、人間の真のバイタリティーがあるように思います。しかもそこには音楽を通じて多くの人が一つになれるという本当に素晴らしい面があるのです。世界平和というのはこういう風にして達成されるものではないでしょうか。

このグランドコンサートで得られた貴重な体験をもとに皆様がますます研鑽を積まれ活躍の場を上げられて、音楽のため人類のために貢献されるよう期待致しております。

Everyone gathered here for the 41st Annual Suzuki Method Grand Concert, Congratulations!!

To express this concert with the words of the times, it's a "Super Big Event"

The distinction of this concert is that it is hot only "Big" but "Great" marked by grace and dignity of Soul, Spirit, and mind.

Your single-minded passion is an uplifting expression. It is the wonderful heart and essence of music, making the most of Dr. Suzuki's teaching. It seems to me that only with this uplifting wave of spirit you can hold such concert.

I have never known a wonderful concert such as this Grand Concert in the world. I am sure the number of people who would like to attend this concert will be increasing. When everybody here plays, which they have practiced hard, we can see their heat and vitality. I think it is the starting point of music.

Moreover, music has a wonderful influence on humans: we tacitly understand each other. I can imagine that the beneficial influence of music may lead everyone toward world peace. May everyone consider this idea by study, research and expansion of your involvement through the inspirational experience of this Grand Concert. It is my hope that all of us contribute our efforts to music and human welfare.



東京芸術大学教授
ヴァイオリニスト
浦川 宜也

Professor of
Tokyo Art University
Violinist
Takaya Urakawa

鈴木鎮一氏に手ほどきを受けた後、小野アンナ女史の門に入り1953年に音楽コンクール入賞、近衛秀彰氏に認められデビュー、1959年西ドイツ給費留学生として渡欧、ベルリンでM.シュヴァルベ氏に、ミュンヘンでW.シュトロス氏に師事。1964年ミュンヘン国立音楽大学を首席最優秀賞で卒業。1965年大指揮者J.カイルヘルト氏に認められ、バンベルク交響楽団第一コンサートマスターに就任、1969年ソリストとして独立、以来西ドイツを中心にスイス・オランダ・オーストリア・イタリア・フランス・スウェーデン・フィンランド・チェコ・ポーランド各地で演奏。1974年10数年ぶりに一時帰国、ヨーロッパの伝統を継承する新しいタイプのヴァイオリニストとして高い評価を受ける。

1979年名ピアニスト、フランツ・ルッフとのベートーヴェン、ブラームスの全ソナタのレコーディングで注目を集める。1982年ワシントン・ライブラリー・オブ・コングレスのシリーズに出演「クライスラーの再来」と絶賛される。1984年4月より東京芸術大学教授、1986年ドイツ連邦共和国功勞勲章一等功勞十字章を贈られる。

最近ではモーツァルト「ヴァイオリン協奏曲全集」(林千尋指揮プラチスラヴァ放送交響楽団)、「ソナタ、変奏曲集」(pf:岡本美智子)(全5枚)などをリリースして好評を得た。

東芝EMI、フォンテック、アートユニオンより多数のCDを発表している。

鈴木鎮一先生、第42回大会おめでとうございます。

先生が長年に亘って、熱い情熱と深い愛情を持って音楽教育に献身なさり、世界的規模で大きな成果を挙げていらっしゃるのには「子供達に出来る限り良い環境を与える事」をモットーとしておられるからだと思えます。勉強に意欲の湧く環境と言うのは、子供達だけではなく青少年や成人にとっても最も大切な事です。私は「どの子も育つ。育て方ひとつ」との先生のお言葉を座右の銘とし、音楽教育に携わる者として、勉強する人達に価値あるモチベーションを提供し、演奏家としては自身自身の勉強の環境を整える努力をしたいと考えております。

先生が今後ますます精力的に教育のお仕事に尽くされる事を心から願っております。

1995年2月

Congratulation for the 41st Grand Concert.

You, Dr. Suzuki, have devoted your life to music education with passion and deep love for many long years. I believe that because your motto is "People give best environment which is possible that we can make for the children", you now see great result on an international scale.

It is important that we continue to make an environment for youths and adults in which people are filled with the desire to study. My motto is Dr. Suzuki's

"All children grow :
everything depends upon how they are raised".

As a music educator, I would like to provide the best valuable motivation for the student. As a player, my effort is to prepare my environment which is for my own study. From bottom of my heart my wish is you, Dr. Suzuki that you will continue to research music education.

Takaya Urakawa



名誉会長 井深 大

Honorary president
Dr. Masaru Ibuka

スズキメソードの影響力

本日、この3000人のお子さんが参加して開催されるグランドコンサートこそ、鈴木鎮一先生がこれまで築き上げて来られたスズキメソードをアピールするのに最も相応しい大演奏会であります。実際の様な言葉をもってしてもこれほど人の心に訴えることは出来ないでしょう。

鈴木先生が提唱して来られた「すべての能力は生れつきではなく、育てられるものである。」の言葉通り、子供の頃から何気なくバイオリンやピアノなどの楽器にふれているうちに、いつの間にかスラスラと弾ける様になってしまう。事実、その上、このスズキメソードのもっと素晴らしいことはテクニックの上達だけでなく、他人への思いやりとか感謝の気持ちを持つとか云った人間そのものの教育、心の教育までに及んでいるところでもあります。

間もなく21世紀を迎える私たちにとって、最も望ましいものは世界中の人類にとっての平和と幸福であると云えましょう。これからスズキメソードが及ぼす影響の重要さはここにつながっています。

本日、小さなあどけないお子さんたちの感動的な演奏の中から私たちの大いなる期待を感じとって頂けたら幸いです。

The Beneficial Influence of Suzuki Method

This Grand Concert, with 3,000 Suzuki children participating, is the very best example of Dr. Suzuki's work. I believe no words can stir our emotions as much as the performance of this concert.

Dr. Suzuki states that children play musical instruments (violin, piano, etc.) smoothly because of their having played since they were young: positive, living proof of the truth in Dr. Suzuki's statement "Talent is not predetermined at birth, but can be made to grow in every child by means of education". Moreover, the most wonderful quality of the Suzuki method is that its essence effects not only music technique, but also human sensitivity: sympathy to others, enter gratitude for kindness, etc.

We will enter the 21st century soon. We are eager for peace and happiness for everyone all over the world. I believe that the Suzuki method will have an important effect on world peace and happiness. We would be pleased if you could feel our great anticipation through the impressive performance of these innocent children.



副会長 鈴木ワルトラウト

Vice president
Waltraud Suzuki

人は環境の子なり

今日、この世の中で最も大切なことは、あらゆる国が平和になることです。

その問題を解決する方法は、世界中のすべての子供たちを正しく教え、育てることです。私たちは教育者として、親として、子供たちが気高い心をもつ人間に育つように、子供の運命を形作る責任を持っているのです。

科学者たちは、母親の胎内に居る赤ちゃんが、既に音を聴き、お母さんの声を他と区別できることを証明しています。この時こそ、お母さんが毎日赤ちゃんに話しかけ、良い音楽を聞かせ始めるのに最適な時期なのです。胎内で既に、素晴らしい音楽のセンスが育っていくのです。そして、赤ちゃんは生まれてから、それまでに与えられていた曲を聞き分けることでしょうか。このように能力を育て始めることは、何と素晴らしいことでしょうか。幼児教育が、この早い時期に開始されることは、とても大切なのです。このようにして、子供の人格と能力は形作られ、生まれてから順調に開発されていくのです。

鈴木は「0歳からの能力が子供の育ちかたを決める。」と言っています。あらゆる子供の心と能力は、その育て方によって変わり、より良い人間になれるかどうかが決まります。

人は環境の子ですから、すぐれた環境と良い刺激を整え、美しい心を持った温かな、愛すべき人に正しく育てることが、親にとって必要なのです。そのようにして、はじめて私たちは世界の平和を期待することができるのです。

'Man is a son of his environment'

The most important thing in the world today is to achieve peace among peoples of all nations.

The solution lies with the proper educational nurturing of all children of the world. We, as educators, as parents have the responsibility to shape the destiny of the children to become people with noble hearts.

Scientists have proven that a baby in his/hers mother's womb can already hear sounds and can distinguish the mother's voice from the voices of others. This a perfect time for a mother to start talking to her baby and to play good selections of classical music daily. That baby will already be developing a good musical sense while still in the womb. After birth it will show recognition of the musical piece to which he had been exposed to. What a wonderful start for fostering his/hers educational ability. It is vital that a child's education begins that early. The child's personality and abilities can be formed and after birth successfully developed.

Dr. Shinichi Suzuki has in his book: 'Ability from Age Zero laid out the formula for rearing the child. Every child's heart and ability can be shaped according to the method of nurturing, and decides whether the baby will be virtuous or viceful.

Since 'Man is a son of his environment' it is necessary for parents to create an excellent environment with good stimuli, and to nurture and educate their babies correctly to become warm, loving people with beautiful hearts. Only then can we look forward to a peaceful world.



大会委員長 本多 正明

Chairman of the Grand Concert
Dr. Masaaki Honda

グランド・コンサートの意義

今年の元旦の夜、NHKで小沢征爾氏を中心とした「地球シンフォニー、共に生きることはできるのか」の番組をみて感動しました。現在の世界が、かかえている問題はあまりにも多く、しかも深刻でその解決の糸口もみつからない程絶望的であります。政治、宗教そして経済は、世界はおろか、国内の人と人の心を結ぶことができません。しかしあの番組をみて、音楽こそ、色々の障害を乗り越えて、人々の心を結ぶ可能性があることを如実にしめしている気が致しました。

才能教育は海外で紹介されて、三十余年になります。この間、この運動はアメリカ、ヨーロッパを中心として世界各国で実践されていることは衆知の通りです。最近私は才能教育こそ、世界の人々の心を結ぶ一番適切な運動ではないかと強く感じております。

鈴木先生は常に「全てのこどもの幸せのために」とうたっておられます。全てという表現は、現在開発が遅れ、色々の問題をかかえている国々も当然、範疇に入るわけです。どの親も自分の子が才能を伸ばし、幸せになることを望んでおります。才能教育の発祥の地である日本はこの運動を世界のすみずみまで紹介する義務と権利をもっております。私はこのことの実現のため、会員の御理解と御協力を切にお願い致します。

「心に正しきあれば、人格に美がある。人格に美があれば、家庭に和がある。家庭に和があれば、国に秩序があり、それぞれの国々に秩序があれば、世界に平和がある。」(中国の古い格言より)

私達の終局の目的はまさにこのことであり、才能教育はこれを実践する力があります。その為、大いにマルチメディアを活用し、この悲願に向って歩み始めましょう。

The Real Significance of the Grand Concert

I was very moved, and given hope by the NHK New Year's program, "Symphony of Earth, The Possibility of Living Together", with Maestro Seiji Ozawa as host.

As I see it, with each passing day, the problems of the world are getting more serious and difficult to solve, sometimes it even seems hopeless. Politics, religion and the economy have little power to bind people's hearts. This is true not only in ones in ones own country, but world wide as well. This television program, however, shows evidence, and provides a powerful message, that music has the unique ability to overcome many obstacles and bring people's hearts together.

Talent Education was introduced abroad more than thirty years ago. This method was first planted in the USA and became well known as "Suzuki Method". Today, it is not only practiced in the America and Europe, but is also spreading all over the world. Recently, it struck me that Talent Education might be the one movement which is the most appropriate medium for binding the hearts of people throughout the world.

Dr. Suzuki has said in his lectures over and over that this movement is for the "Happiness of All Children in the world". We must not forget that the "All" in that expression also refers to countries in need of educational and cultural development, as well as those with other problems. No matter what kind of circumstances their countries are in, without exception, all parents wish for the happiness of their children. And all parents search for ways to develop their children's abilities.

Since Talent Education was born in Japan, it is our duty and privilege to spread this wonderful movement to all people in the world. To make Dr. Suzuki's dream possible, I sincerely entreat the understanding and cooperation of all our members.

There is an ancient Chinese proverb that says, "If there is righteousness in the heart, there will be beauty in the character. If there is beauty in the character, there will be harmony in the home. If there is harmony there will be order in the nation. When there is order in the nation, there will be peace in the world."

Our ultimate goal is very similar to this proverb. To achieve this purpose, I strongly believe it is time for all of us to communicate and cooperate each other. Only then can we begin our journey together.



大会実行委員長 寺田 義彦

Chairman of the Grand Concert
Planning Committee
Yoshihiko Terada

本日は第41回スズキメソードグランドコンサートへおいで下さいまして、ありがとうございます。

1995年(昭和30年)に第1回のコンサートが開催されて以来、このコンサートは昨年40回を迎えまして、半世紀近くの歴史を持つものとなりました。

「どの子どもも育つ、育てかたひとつ」

「人は環境の子なり」

長い年月を経ましたが、このように鈴木鎮一会長の唱えてきたスズキメソードの精神は、今日いさかも風化しておりません。

40年前の日本の生活水準を考えますと、現在我々はいかに豊かな物質文明の恩恵を受けているか、よく理解できます。しかし、次の世界を担う子供たちの精神的な環境を考えますと、いかがでしょうか。

子供たちの育つ環境のあらゆる面での充実は、親たちすべての普遍的な願いといえますでしょう。

本日演奏する生徒のご両親には、同じスズキメソードで学んだ方も多くいらっしゃいます。これは、近年顕著になってきたことです。

おそらく近い将来、3世代にわたってスズキメソードで学ばれるご家族が生まれることでしょう。

自分たちが受けたスズキメソードで、わが子を育てるご家庭が増えているということは、「母国語教育」方式と「古今の名曲」を教材としていることが、いかに多くの人の共感と支持を得ているかの表れと思います。

本日出演の3,000人の子供たちの演奏と共に、彼らの表情もご覧いただけますようお願いいたします。

又、観客席で暖かく見守るお父さま、お母さまご家族の方々の表情もご覧ください。皆の顔に輝きがあればこそ、このコンサートの意義があります。

それでは、最後までお楽しみください。

We thank all of you for coming to the 41st Anniversary Suzuki Method Grand Concert.

The last concert, the 40th since the beginning of the Grand Concert series in 1994, has a history of nearly half a century.

"Every child grows, success depends on how a child is raised." "Man is the son of his environment." No matter, how many years have passed since Dr. Suzuki championed the essence of the Suzuki Method, these spirits have not been dwindled.

If we compare our modern Japanese lifestyle to that of old Japan of about forty years ago, we believe that our standard of living is higher. We have many material benefits in our contemporary society, but what about the children's spiritual environment? Universally, parents hope every child can be educated in a completely nurturing environment.

Recently, it has come to our attention that many parents share a common experience with those children who are performing today: these parents also studied music in the Suzuki Method. As our students grow to adulthood, marry, and raise their own children, it is natural for them to educate their children in the Suzuki Method. I am sure in the near future the numbers of three generations of Suzuki Method educated families will be increasing. The sympathy and support of many people for the Suzuki Method is a response to the concept of the "Mother Tongue Method" and the well known, classical music literature used as teaching material.

Allow me to suggest that you notice the facial expressions of the parents of the children who are performing today. While they are seated in the audience listening and watching their children playing in this concert, the brightness of their faces makes this concert worthwhile.

We hope you will greatly enjoy this concert.

プログラム

第43回 卒業式 午後1時

祝賀演奏「六段の調べ／松籟譜」	正派邦楽会	箏の皆様
挨拶	大会委員長	本多正明
挨拶	会長	鈴木鎮一
卒業証書授与	会長	鈴木鎮一
祝辞	名誉会長	井深大
各科卒業演奏	平成6年度	卒業生

第41回 グランドコンサート 午後2時

◆バイオリン斉奏	協奏曲 ニ長調 第1楽章	チャイコフスキー
◆ピアノ斉奏	メヌエット パルティータ 第1番より	パデレフスキー バッハ
◆フルート斉奏	精霊の踊り 歌の翼に メヌエット アレグレット ロングロングアゴー	グルック メンデルスゾーン テレマン ベートーベン ベーリ
◆箏とバイオリン	春の海 賛助出演(箏) 正派邦楽会	宮城道雄
◆チェロ斉奏	協奏曲 ハ長調 第1楽章 白鳥 スケルツォ 楽しき農夫 フランス民謡	ハイドン サン＝サーンス ウェブスター シューマン 外国曲
◆弦楽合奏	協奏曲 イ短調 第1楽章	バッハ
◆バイオリン斉奏	ソナタ 第4番 第1・2楽章 2つのバイオリンのためのソナタ 第3楽章 協奏曲 イ短調 第1楽章 ブーレ ガボット 妖精の踊り 狩人の合唱 メヌエット 第1番	ヘンデル タルティーニ ビバルディ バッハ マルティーニ パガニーニ ウェーバー バッハ
◆フィナーレ バイオリン・チェロ・フルート合奏	小林一茶の俳句 唱和 楽しい朝 アレグロ キラキラ星変奏曲	鈴木鎮一 鈴木鎮一 鈴木鎮一

Program

The 43rd Graduation Ceremony (1:00p.m.)

Koto Performance dedicated to the graduates	by Seiha Hohgakkai
Rokudan	Kengyo Yatsushashi
Shoraifu	Utashito Nakajima
Opening Address	Dr. Masaaki Honda, Chairman of the Grand concert
Greeting	Dr. Shinichi Suzuki, president
Presentation of Certificates	Dr. Shinichi Suzuki, president
Congratulatory Speech	Dr. Masaru Ibuka, Honorary president

The 41st Grand Concert Program (2:00p.m.)

Violin	Concerto in D, 1st mov.	Tchaikovsky
Piano	Minuet from "Partita No.1"	Paderewski Bach
Flute	Orphee et Euridice On Wings of Song Minuet Allegretto Long Long Ago	Gluck Mendelssohn Telemann Beethoven Bayly
Koto and Violin	Haru no Umi(Spring Sea) Koto by Seiha Hohgakkai	Michio Miyagi
Cello	Concerto in C, 1st mov. The Swan Scherzo The Happy Farmer French Folk Song	Haydn Saint-Saëns Webster Schumann Folk Song
String Ensemble	Concerto in a, 1st mov.	Bach
Violin	Sonata No.4 1st, 2nd mov. Sonata for 2 violins, 3rd mov. Concerto in a, 1st mov. Bourrée Gavotte Witches' Dance Hunters' Chorus Minuet No.1	Händel Tartini Vivaldi Bach Martini Paganini Weber Bach
Finale Violin, cello and Flute	Haiku Andantino Allegro Twinkle little star Variations	Issa Kobayashi Shinichi Suzuki Shinichi Suzuki Shinichi Suzuki

プログラム・ノート

バイオリン協奏曲 二長調 第1楽章/チャイコフスキー作曲

バイオリン

ベートーベン、ブラームス、メンデルスゾーンと共に、広く愛されているこのコンチェルトは、結婚に失敗したチャイコフスキーがスイスのジュネーブで静養しながら書き上げた曲と言われています。チャイコフスキーがこの曲を当時の大バイオリニスト、レオポルド＝アウアー（エルマン、ジンバリスト、ハイフェッツの先生）に献呈しようとペテルブルグを訪れ、アウアーから「技術的に難しすぎて演奏不可能！」と言われたエピソードは有名ですね。さて、今年も約100名の子供達でこの曲を演奏します。もしチャイコフスキーやアウアーが生きていたら、きっと驚いて腰を抜かすに違いありません……。

メヌエット/パデレフスキー作曲

ピアノ

パデレフスキー（1860～1941）は、19世紀末から20世紀にかけて世界各地を演奏旅行し、聴衆から熱狂的に支持された、ポーランドのピアニストです。何と彼は、第1次大戦後、独立を目指したポーランド首相をつとめた経験もあるんですね。本日演奏されるのは、彼のピアノ作品集「演奏会のためのユーモレスク」op.14から第1曲め、最も有名な「古風なメヌエット」です。

パルティータ 第1番/バッハ作曲

ピアノ

「Bach（ドイツ語で小川のこ）は小川ではなく、大海だ！」と言ったのはベートーベンですが、ベートーベンの言葉を引用するまでもなく、バッハはドイツ・バロック音楽をプロテスタントの立場から集大成した大作曲家です。この「パルティータ 第1番」は1731年、彼が46歳の時出版された『クラヴィア曲集第1巻』に収められた6曲のパルティータの第1曲めになります。「パルティータ」には、一連の変奏曲という意味もあるのですが、バッハは舞曲を中心とした組曲という意味でこの言葉を使っています。「無伴奏バイオリンのためのパルティータ」も有名ですね。

精霊の踊り/グルック作曲

フルート

1600年に、世界で最初のオペラが上演されてから今日まで、一体どのくらいのオペラが作曲されたのでしょうか。おそらく莫大な数でしょうが、現在の劇場レパートリーの中で、最も古いのが、グルック（1714～1787）が48歳の時に作曲した「オルフェオとエウリディーチェ」です。ギリシャ神話のオルフェウスが、亡くなった妻を連れ戻しに冥界に行く…という物語ですが、この作品の初演は、ウィーンにセンセーションを巻き起こした程だそうです。「精霊の踊り」は、このオペラの中でフルートのソロによって歌われる、とても美しい間奏曲です。フルート科では10数年前からU字型頭部管を採用し、小さなお子さんにも無理なく演奏出来るように指導しています。

歌の翼に/メンデルスゾーン作曲

フルート

本日、フルート科の生徒さん達で演奏されるこの美しい名曲のオリジナルは、メンデルスゾーン（1809～1847）が1834年に書いた歌曲集「6つの歌」op.34の第2曲「歌の翼に」です。25歳のメンデルスゾーンがハイネの詩に曲をつけました。あまりに美しい詩なので一節だけご紹介しましょう。

「君のつばさにのせて、恋人よ、君を遠くに連れて行ってあげよう。
はるかなガンジス河のほとりに——僕はあそこに、すてきな場所を知っているんだ。」

春の海/宮城道雄作曲

箏と
バイオリン

「春の海」は1929年、宮城道雄（1894～1956）が35歳の時、箏と尺八の二重奏曲として作曲されました。かつて旅した春の瀬戸内海ののどかな情景を曲にしたものですが、作曲当初は評判はあまり良くなかったようです。奥さんにまで、「あの出だしの尺八のメロディーが俗っぽい…」とけなされたとか。この曲が世界的に名声を得るのは、それから3年後のことです。道雄の演奏を聴き、感激したフランス人のバイオリニスト、ルネ・シュメー女史が尺八のパートをバイオリンに編曲して、自分の演奏会で道雄と共演したのです。1932年5月31日の日比谷公会堂は、興奮の坩堝（るつぼ）と化していた…と資料にあります。その後、2人によってレコーディングされた「春の海」は、1万数千枚を越す大ヒットとなり、アメリカ、イギリスでも発売され、宮城道雄の名は、「世界の宮城」になったのです。

毎年、お箏で賛助出演して下さるのは、正派邦楽会の皆様です。

チェロ協奏曲 八長調/ハイドン作曲

チェロ

今世紀になって、フランツ・ヨーゼフ・ハイドン（1732～1809）が見直され、研究が進むにつれて様々な事が分かってきたのですが、そこから浮かび上がってくるのは、常に新しい響きと可能性を追求し、前向きに努力を惜しまなかった一人の真摯な作曲家の姿です。楽器をよく知るために、当時の最新式トランペットを半年間懸命に練習した…という話も残っています。モーツァルトと時々カルテットを組んでいたぐらいですから、バイオリンの腕前も相当なもの…だったのかな？ とにかく、勉強家だったことだけは、事実です。

さて、本日演奏される「チェロ協奏曲 八長調」は、実に200年もの間、発見されずに眠っていた名曲です。1961年にプラハ国立博物館でチェコの音楽学者によって発見されました。

白鳥/サン＝サーンス

チェロ

この曲は、サン＝サーンス（1835～1921）が51歳の時、友人のチェリストの為に作曲した組曲「動物の謝肉祭」の第13曲めです。人間達がバカ騒ぎをする謝肉祭で、もし動物達もはしゃいだらどうなるだろうか…と想像して、この曲を作曲したそうです。この組曲は全体で14曲からなり、ライオン、鶏、亀、象、カンガルー…など、いろいろ登場するのですが、何と言っても一番美しいのは、この曲「白鳥」です。

2つのバイオリンのためのソナタ 第3楽章/タルティーニ作曲

バイオリン

18世紀最大のバイオリニスト、タルティーニ（1692～1770）は、生涯にバイオリンコンチェルトをおよそ150曲、ソナタは200曲以上作曲したと言われていますが、その多くはいまだに出版されていません。重音楽法や近代的なボーイングの研究に没頭し、多くの理論書を残したそうです。また、当時の外側にわん曲した弓を、現代の形に近くしたのも彼だと言われています。今日演奏する曲は、16分音符のかけ合いで始まる、いかにも彼らしい明るさに満ちた二重奏になっています。

小林一茶の俳句

俳句

俳句というのは、5・7・5の17音からなる定型の短い詩です。おそらく定型詩のジャンルの中では、世界中で一番短いものでしょう。ところで毎年この会場で唱和される、小林一茶という江戸後期の俳人は、それまでの難解で気取った俳句に対抗して、俗語や方言を巧みに取り入れ、庶民の心をとらえました。

「我と来て 遊べや親の ない雀」
この句、1つを見ても、彼の不幸な少年時代の経験から、弱者に対する暖かな眼差しと慈しみの心に溢れています。子供達に一茶の俳句を暗唱してもらっているのは、ただ単に、記憶力の訓練をしている訳ではありません。私達は心を育てたいのです。

Program Notes

Violin Concerto by Tschaikovsky, 1st movement

This concerto, widely loved and known with others by Beethoven, Brahms and Mendelssohn, was composed by Tschaikovsky while he was convalescing in Geneva, Switzerland after the pain of his broken marriage.

Violin

There was a famous episode about this piece. Tschaikovsky visited Petersburg to present this piece to the great violinist of the day, Leopold Auer (M. Elman, E. Zimbalist, J. Heifetz's teacher), but was told by Auer, "It's too difficult technically; therefore, it's impossible to play."

Now, again this year, about 100 children will play this piece. If Tschaikovsky or Auer were alive, imagine how shocked and surprised they would be.

Minuet by Paderewski

A pianist who toured world wide at the end of the end of the last century and the beginning of this one, Paderewski was enthusiastically received wherever he performed.

Piano

Following the end of World War 1 when Poland regained its independence, Paderewski served as Prime Minister of that nation.

In addition to his performing and political careers, Paderewski composed for the piano. Today's performance includes a popular, famous selection from his piano work "Humoresque for Concert" op. 14, the "Minuet in the Old Fashion."

Partita No.1 by Bach

"Bach from the German meaning stream, is not stream, he is Great Sea!!" by Beethoven.

Bach is great composer as we know, whose German Baroque music arose from a Protestant ethic and culture.

Piano

This piece is the first of "Six Partitas". As when a part of the Klavierübung and Klavierübung, which was published in 1731, Bach was 46 years old, the word partita means "variation of series". However in this case Bach uses this word to mean a suite whose titles bear names of dance pieces.

3 Partitas for solo violin are also famous, aren't they?

Ballet des Champs-Elysées by Gluck

Since the first opera was presented in 1600, how many operas have been composed? Probably, a huge number. The oldest of the operatic repertory is "Orphèè et Eurydice", which was composed by Gluck when he was 48 years old.

Flute

"Orphèè et Eurydice" is the story of Orphèè who is one of the characters of Greek mythology who went to heaven to get back his wife. The first presentation of this opera caused a great sensation.

Ballet des Champs-Elysées is for flute solo, beautiful music adapted from an interlude in the opera.

Ten years ago, the U-shaped head tube was adopted and attached to the flute. It is now in use so that even the little children may play the instrument with more ease.

On Wings of Song by Mendelssohn (1809-1847)

The original edition of this beautiful music is a vocal piece composed by Mendelssohn.

Flute

The second of "Six Songs" (op. 34). Mendelssohn composed this work when he was 25 years old. The lyrics are from a beautiful poem by Hinne, a portion of the poem reads:

*"Let put on the wings of Song, my Lover, take you to far world,
The Side of Gandis river is far away, I know the great place."*

Program Notes

Haru no Umi (Spring Sea) by Michio Miyagi (1894-1956)

"Haru no Umi" was composed by Michio Miyagi at the age of 35 as a duet for Koto and Shakuhachi (Bamboo Flute).

Koto
&
Violin

The composer traveled Setonaikai (the Inland Sea) in the springtime and composed the music with this peaceful scenic imagery in his mind. However, at first, it was popular as a duet but had a poor reputation. It is said that his wife also remarked that "the beginning of Shakuhachi melody is too popular". After three years had passed, this music became very famous. Ms. Renée Chemet, who is a world famous French violinist, heard Michio's playing on the Koto, and was deeply moved. Then, she arranged the Shakuhachi part for violin and she performed in concert "Haru no Umi" with Michio. Because of their playing in concert at Hibiya Kohkaido in May 31, 1932, there was an excited audience reaction.

Then, Michio and Chemet recorded this composition and the sales topped over eleven thousand records. Also, this record was sold in America and England, and Michio Miyagi became "International Miyagi".

Every year Seiha Hougakukai members act as a guest star and play Koto.

Cello Concerto in C major by Haydn

Since this century, Franz Joseph Haydn has been rediscovered as a well regarded composer. He is a prolific. It is said he played trumpet very hard for half a year for trying to familiarize himself with other instruments. His high level technique was far beyond the standard at that time. He used to organize quartets with Mozart, so we suppose his violin skills were also quite good. Actually, he was a hard worker.

Cello

The "Cello Concerto C major" is famous and is being performed today. It was only discovered at the Prague National Museum in 1961 by a Czechoslovakian Music scholar. No one played it for 200 years!

The Swan by Saint-Saëns

Saint-Saëns composed the "The Fantasy Zoologique" when he was 51 years old for his cellist friend. This piece is the 13th of "The Fantasy Zoologique". When he composed this music, he imagined that if people were on a holiday spree during the Carnival, animals also were on a holiday spree.

Cello

In this suite there are 14 pieces. We can find several animals represented, the Lion, Hen, Tortoise, Kangaroos and so on, but the most beautiful one is this "Swan".

Sonata for Two Violins by G. Tartini, 3rd movement

The greatest violinist of the 18th century, G. Tartini (1692-1770) is said to have composed about 150 pieces of violin concerto and over 200 pieces of sonata in his life time. But most of his works are not published.

Violin

He devoted himself to playing methods and research on modern "bowing"; thereby, leaving many theory books. Also he is credited to have changed the shape of the bow which had more curve on the outer side, closer to the present shape.

The piece to be played today starts with a 1/16 note duet, very much in keeping with his style of duet, filled with cheerfully bright mood.

Kobayashi Issa's Haiku

Haiku is a "fixed form" short poem composed of 17 syllables, stanzas lines of 5-7-5 respectively. It is possible that Haiku poetry is the shortest of the poetic genre, world wide.

Haiku

Every year Suzuki students who have gathered here at the Budokan for this Grand Concert, recite Haiku poetry which was written by Kobayashi Issa. A poet of the Edo era (1603~1868) Issa's Haiku are characterized by the language of every day life of Edo Japan. He skillfully used slang and dialects which endeared him to the common people of Japan. His Haiku was hardly that of the traditional sort. He opposed stiff, affected language which may have only appealed to the aristocracy.

"Come and play with me you orphan sparrow"
As we hear this poem, we find a Haiku which is filled with his warm, affectionate heart to the week, in spite of his unhappy childhood, springs his warm and loving Haiku.

Suzuki students learn Issa's Haiku for a number of reasons. Memory training is one important reason, but more important is the nurturing of the child's heart and mind to this sensitively written, unique poetic form.

鈴木鎮一

*この記事は小学館・サライ編集部のご厚意により、サライ'93.12/16号（小学館刊）より転載させて頂きました。



95歳、音楽教育に携わって60余年。

「生まれつきの才能などありません。

人の能力は、環境が育てるんです」

—先ほど、レッスン風景を拝見しました。

「ええ、気付いていましたよ。レッスン中でしたので、ご挨拶できずに失礼しました。

午前中はレッスンの時間でしてね、ああやって一度に15人くらいを相手に、週に7日バイオリンを教えています」

—すると、日曜日もなしですか。

「日曜日とか休日というのは、私の辞書にはない言葉ですねえ（笑）。

ここは才能教育研究会の本部でしてね。世界中か

ら、常時50人近い生徒さんが集まっています。今はアメリカ、中国、デンマーク、チリ……もちろん日本人も。生徒といっても、彼らはすでに指導者として、子供たちにバイオリンを教えている実力の持主です。そんな方々が、一度は直接この本部でレッスンを受けたいと、わざわざ日本にいらしてらるんです。私も休めませんよ」

—レッスンは、午前中だけですか。

「ええ。私自身は、午前3時から働いていますがね。出勤は午前9時だけど、それこそ朝飯前にひと仕事。

研究会の機関誌の原稿を書いたりね。秋を過ぎると、卒業を控えた生徒さんがテープを送ってきますから、これも聴かなきゃならんですし。

あなたは、95歳になったことがないからわからないでしょうが、人間はこの年齢になっても、けっこう働けるものですよ」（笑）

—テープとは、どのようなものですか。

「全国の生徒さんが、自分の演奏を録音したテープです。年間1万5000本くらいですか。それを全部聴いて、私の感想をテープに録音して返送するんですから、時間はいくらあっても足りませんよ」

—卒業生が、年間1万5000人も？

「ええ。“スズキ・メソッド”（鈴木方式）と呼ばれている、この私のやり方で学んでいる生徒さんは現在、海外の42か国で40万人、日本でも3万人を超えています。累計すると、すごい数字になるでしょうねえ。

お陰で、私は音楽教育に貢献したという理由から、海外の8大学の名誉博士号をいただきました。この名誉博士というのは、難しい勉強もいらんし、長い論文を書く必要もないし、ありがたいもんですなあ」（笑）

—海外の生徒数が多い理由は何でしょう。

「どうも、日本人のほうが頭が固いのかもしれせんねえ。芸術というものは、素質や才能がなければいけないと思込んでいる。

それと、すぐに親たちはこう言うんです。“うちの子はものになりますか”と。実利が保証されないと、子供に投資するのはもったいないとでも思っているんでしょうかねえ。その点、外国の人は違います。素晴らしいものは素晴らしいと認めてくれます。あのカザルス先生だってそうですよ」

—チェロのパブロ・カザルスですね。

「そうです。'61年ですか、来日したカザルス先生に、子供たちの演奏を聴いてもらったことがありました。先生は“奇跡だ”と言って驚いておられましたよ。5歳から12歳の子供たち400人が、一斉にビバルディやバッハを弾き始めたんです。これは、音楽大学の学生がようやく弾けるような曲ですからね、驚くのも無理はありません。

その他、多くの音楽の専門家が、子供たちの演奏に接するにつれ、この“才能教育”が世界中に広ま

ったんです」

—その400人は選び抜かれた生徒ですか。

「いえいえ、ごく普通の子供たちです。うちには入学試験なんてありませんから。

ですが、私のやり方で3歳からバイオリンを始めれば、誰でも7歳前後で、メンデルスゾーンやチャイコフスキーの協奏曲を弾けるようになりますよ」

—才能、素質に関係なく、ですか。

「もちろん。というより、“そもそも人間に生まれつきの才能とか素質などない”というのが私の持論です。つまり育て方次第。バイオリンに限らず、きちんと教えれば、どんな子供も素晴らしい能力を発揮する。その意味で、“人は環境の子”と私は言っています。

現在の生徒数は、国内外で43万人。

ポイントはひとつ。幼児から一流の

演奏を、何度も聴かせることです

ところが現実には、親や教師、周囲の大人たちが子供の可能性の芽を摘んでいる。それが私には残念でならないんです。だから専門であるバイオリンを通じて、人は環境の子、ということをお話しているわけです」

—「人は環境の子」という意味について、もう少し詳しく教えてください。

「たとえば、どんな子供だって、自分の国の言葉は理解しているでしょう。どんなに勉強が苦手な子供でも、日本人なら日本語はペラペラですよ。それはどうしてだと思いますか。お父さん、お母さんが愛情を持って、毎日一生懸命、赤ちゃんに話しかけているからです。この反復があるから、難しい日本語だって、いつしか話せるようになるんです。

ならば、他の学問だって同じはずでしょう。周囲の大人が愛情を持って、反復学習を繰り返させる。つまり修得する環境さえ与えれば、自然と理解する力が備わってくるんです」

—遺伝ということは、ありませんか。

「顔立ちが両親に似るなどの意味なら、遺伝はあるでしょうが、能力は環境が作るんです。

オオカミに育てられた人間の話を知っていますか。1941年にエール大学の教授らが発表したんですが、

2歳と7歳くらいまでオオカミに育てられた、ふたりの子供の観察記があります。

その子たちは人間の手で育てられるようになってからも、両手両足を使った歩行、夜の遠吠えを続けたそうです。ここからも、幼児期の環境がいかに決定的かわかるでしょう」

— **バッハがオオカミに育てられていたら。**

「ええ、あの名曲の数々は生まれなかったでしょうねえ。モーツァルトだって石器時代に生まれていれば、石器人でしかなかったはずです。ふたりとも音楽に恵まれた環境に育ったからこそ、偉大な音楽家になったんです。

ですから、人は環境の子だと言うんですね。私はそれに気付いて初めて、バイオリンの幼児教育を始めることができました」

— **発想の原点は、何だったんでしょう。**

「もう62年前になります。当時、私は東京に創設されたばかりの帝国高等音楽学院の教授として、バイオリンを教えていたんですが、そこに4歳の幼児を連れた父親が来ましてね。“この子にバイオリンを習わせたい”と。

さあ、困った。音符も読めない幼児に、どうやってバイオリンを教えることができるのか。そこで聞いたのが、赤ちゃんが自然と言葉を覚えるように、バイオリンを教えればいい、ということでした。これが、私の提唱する“母国語の教育法”の出発です」

— **具体的には、どう指導したんですか。**

「難しいことじゃないんです。一流のバイオリニストが演奏したレコードを、毎日聴かせる。ただ、これの繰り返し。

そうすると正しい音、素晴らしい演奏が、自然と頭の中に刻まれるんです。同時に簡単なメロディーを演奏させます。4分の1モデルなど、小さいサイズのバイオリンを使ってね。ただ、まだ指に力がないから、左手の指は2本だけ使います。そのうち筋力がついて、すべての指が使えるようになります」

— **成果は、いかがでしたか。**

「私自身が驚くほどの結果が出ました。その子は、7歳でザイツのバイオリン協奏曲第三番を弾き、11歳の時に毎日コンクールで1位になりました。それが、今や世界的な名バイオリニストになった江藤俊哉君です。

ベルリン放送交響楽団の第1コンサートマスターや、ベルリン芸術大学教授にもなった豊田耕児君も教え子ですが、彼は3歳でドボルザークのユーモレスクを弾いています」

— **諏訪根自子、黒沼ユリ子、佐藤陽子さんなども教え子だそうですね。**

「ええ、そうです。皆さん、世界に通用する立派な演奏家になりましたねえ。

でも、誤解しないでください。私の目的は英才教育じゃないんです。“スズキ・メソッド”は、天才を作るための特別な教育だと思われがちですが、それは違う。江藤君や、豊田君のようにプロになるかどうかは、成長してからもどれだけ音楽を愛するか、情熱を持続するか、その違いでしかありません」

— **幼児期からの練習開始が、前提ですか。**

「そうですね。やはりスタートは、早ければ早いほどいいでしょうね。それこそ生まれてすぐなら理想的でしょう。もちろん、自分でバイオリンを弾くことはできませんよ。でも、音楽を楽しむ心は育ちます。

6歳の生徒さんの妹で、生後5か月の赤ちゃんがいました。その子なんてね、ピバルティの協奏曲に合わせて、体でリズムを取るんですよ。うれしそうな顔をしながらね」

— **音痴でも、大丈夫ですか。**

「生まれつきの音痴なんていませんよ。言いましたでしょ、人は環境の子だって。

そりゃあね、歌の下手なお父さんの子守歌で大きくなった子は、音感もずれているかもしれない。でも大丈夫。素晴らしい音楽を何回も繰り返し聴き続ければ、正しい音を覚えて音痴も直ります。地方で育った人だって、東京に2～3年も住めば、東京弁を話すようになるでしょう。それと同じです」

— **大人は手遅れでしょうね。**

「音痴を直す程度なら、年齢は関係ありません。70歳を過ぎてからでも大丈夫。

ただし演奏家ということになれば、やはり難しいでしょうねえ。といっても、ある程度は弾けるようになりますよ。なにしろ私自身がバイオリンに初めて触れたのは、17歳になってからですからね」

— **ずんぶん、遅咲きですね。**

「そうなんです。実家はバイオリンの製作会社だった

今も朝3時から働いていますよ。

定年は120歳と決めてましてね。

そう、あと25年しかありませんねえ

んですけどね。子供の頃は自分で演奏するなんて、夢にも思わなかった。私は、商業学校に進んで会社の跡を継ぐことばかりを考えていたんです。

ところが17歳の時です。父が蓄音機を買いましたね。バイオリニストのミッシェル・エルマン演奏の、シューベルトのアベ・マリアを聴いた。その素晴らしい。それこそ魂を揺さぶられるほどの感動でした。その日から、自分でもバイオリンを手にしていました」

— **すると、独学ですか。**

「最初はね。レコードを聴きながら、どうやれば同じ音が出るんだろうと、自己流で目茶苦茶に弾いていました。

正式に先生についたのは、21歳になってからです。たまたま同郷ということで、可愛がってくださっていた徳川義親侯爵に勧められて、上京しましてね。その紹介で幸田露伴の妹の安藤幸先生に師事しました」

— **ドイツにも留学されたそうですね。**

「ええ、それも徳川侯爵の勧めでした。どうせなら、音楽の本場のヨーロッパに行きなさいと。それで23歳の時、ベルリンに留学したんです。そこで、ベルリン音楽学校の教授、カール・クリングラー先生に師事しました。飛び込みで弟子入りを志願したんですが、ありがたいことに帰国までの8年間、個人教授していただきましたね。

そのうえ、個人的に聞くいろんなホームコンサートにも招いてくださって。お陰で、音楽漬けの毎日を送ることができました」

— **音楽的な「環境の子」になったんですね。**

「そう、まさにその通りです。当時のベルリンはコンサートなどのチケットも安くてねえ。バイオリンだけでなく、ヒアノやオペラの公演など週に5回は観賞していました。本当に環境に恵まれていましたね。

それと、クリングラー先生以外の人にも恵まれました。そのひとりが、相対性理論のアインシュタイ

ン博士。博士から言われた“人間に西洋人も東洋人もない。皆、同じです”という言葉は、今も鮮明に覚えています」

— **どういう意味だっんでしょう。**

「ある日、博士の自宅でホームコンサートがありましたね。私もバイオリンを弾きました。それを聴いたドイツ人の婦人が“日本人が、なぜ西洋音楽の心を表現できるのか”と聞いた。博士の言葉はその返事です。

これには私も感動しましてねえ。婦人の言葉によって、素質や才能ではなく、情熱さえあれば、ドイツ人の心を動かすほどの演奏ができるんだとわかった。そのうえ博士は人間は皆、平等と励ましてくれたんです。人は環境の子、という私の発想の原点は、この時にあるといってもいいでしょうね」

— **帰国後は、才能教育一筋ですか。**

「ええ、帰国直後に弟たちと“鈴木カルテット”を組んで公演活動をしていた時代と、戦時中を除けば、ずっとバイオリンを教えていたことになりますね。

でもね、私はバイオリンだけを教えているつもりはないんですよ。その子の能力を引き出したい、美しいものの心がわかる子に育ててほしいと願っているんです。すべての子供が、教育次第で高く、よく育つ。そのことをバイオリン教育を通じて証明したいんです。もちろん今後も、命ある限り、それを訴え続けていくつもりですよ」

— **命ある限り、ですか。**

「アハハ、そんなに驚いた顔をしなさんな。以前から、定年は120歳と決めているんですから。だってね、私はずっと教育をする環境の中にいたでしょ。引退して、余生を送る能力のほうは育たなかったんですよ。

まさに、“環境の子”なんです」(笑)

(取材・文／根津信之)

Shinichi Suzuki

— **I've watched your lesson.**

I noticed that you were there, but I was sorry that I could not say hello to you during the class. I regularly teach violin like that in the morning, with 15 students, seven days a week.

— **You mean, you have no Sundays off?**

In my dictionary, there is neither Sunday nor holiday. The head office of Talent Education Institute (Suzuki Method) is here in Matsumoto, and there are usually about 50 students from all over the world who attend class. Right now, the students have come from America, China, Denmark, Chile, and of course from Japan. They are studying here as students, but they are already teachers and have been teaching violin students. They took the trouble to come here to study violin directly from me, that's why I can't take a holiday.

— **Do you teach only in the morning?**

Yes, I come to school at 9, but at home I work beginning at 3 o'clock in the morning. This is a simple job. You've never been 95, we can still work at age 95. In the fall, I listen to a lot of cassette tapes from the students who are going to graduate.

— **Why do they send the tapes?**

Students make a recording of their performance, then send me the cassette tape. There are perhaps 15,000 of these tapes a year. I listen to all these tapes, then record my impression of the performance on each tape. No matter how I work hard, I'll never have enough time to complete my task.

— **15,000 of graduating students a year?**

Today there are about 400,000 students, in 42 countries, studying my method, which is called the Suzuki Method. There are more than 30,000 students in Japan, If you figure out the total number of Suzuki students, it is vastly enormous. Thanks to this Method, I was awarded honorary doctorates from 8 universities abroad, for my contribution. I really appreciate the honorary doctorates, because without working hard or writing a long, long dissertation, it was given to me.

— **Why do you think there are many more Suzuki students in foreign countries?**

Well, it seems we Japanese are more obstinate. We believe that a few people with aptitude and talent can learn art. Also at the very beginning, parents ask "Can my child succeed in music?" They may think it is a waste to invest in their children if they are not guaranteed results, or some other reward. Nowadays people in foreign lands have another way of thinking: something "wonderful" is what you judge to be wonderful. Pablo Casals appreciated our Suzuki Method.

— **Pablo Casals? The cello maestro?**

I think it was 1961, when he came to Japan and had a chance to hear the performance of Suzuki students. Surprised, he said, "It's a miracle." Together 400 children aged 5 to 12 started to play Vivaldi and Bach. These pieces can be played by traditionally trained music students of college age, so it was natural for Casals to be surprised. Because many other professional music specialists listened to the performance of Suzuki students, the Suzuki Method was growing around the world,

— **400 students played in front of Casals. Were they specially selected students?**

No, no, they were just average. We do not have any exams, like an entrance exam or aptitude testing. But if children start studying violin from age three with Suzuki Method, every child can play concertos of Tchaikovski and Mendelssohn at around age 7.

— **Any child? Without talent or aptitude?**

Any child. My cherished philosophy is that "Human beings do not have natural aptitude or talent." This means let's examine how he is nurtured. I can say this to every child, not only to Suzuki students. If they are nurtured by the proper methods, every child will show wonderful ability. That's the reason why I am always saying that "Man is a son of his environment." But the essence of the children's abilities may be overlooked by parents and teachers who are blind to the children's potential. I really can't change this fact, so through the violin I've been kept

reiterating the appeal "Man is a son of his environment."

— **Would you please explain more about "Man is a son of his environment." ?**

All right, every child understands his own language. Even if he doesn't like to study very much and has scored low in the exams, if he is Japanese he speaks Japanese fluently. Why do you think he is a fluent Japanese speaker? It's because every day his father and mother speak to him attentively, with love. With this repetition, a Japanese baby will speak Japanese naturally. We can say the same thing in the other fields of study, if we adults have the children study repeatedly with love, in other words, if a child is given the proper environment to learn, the child will be endowed with ability for understanding.

— **How about heredity?**

As far as appearance, actually, if the child's face looks like his parent, then I would say there is some hereditary effect from parent to child. One's ability can be developed by his environment. Do you know of the 2 children raised by wolves until about ages 2 and 7? In 1941, professors of Yale University published a report about them stating that they kept walking on their four legs, that is, they used their hands as legs, and kept howling at night, even after human beings started to raise and take care of them. This story reinforces how important and decisive one's early childhood's environment is!

— **And if Bach had been raised by a wolf?**

Of course he would not have composed great works of music. If Mozart had been born in the Stone Age, he would have been just a Stone Age guy. It is because both Bach and Mozart were nurtured with such a good musical environment, that they became great musicians. That's why I keep saying "Man is a son of his environment." When I noticed this, I could start teaching violin to young children.

— **What was the key concept of your method?**

It was 62 years ago when I was a music professor at Teikoku Ongaku Gakuin which was newly founded in Tokyo. One day a father brought his 4-year-old

son to me and said, "I would like my son to study violin." I was at a loss and embarrassed: how can I teach violin to a very young child? He could not even read music! Then one idea flashed into my mind: "A baby learns words very naturally from his parents. In this way, I can teach him violin." This was the beginning of the "Mother Tongue Method" which I am advocating.

— **How did you teach him, actually?**

It's not that difficult a thing to do. Everyday I had him listen to records performed by great major performers, the process was repeated many, many times. Then deeply fixed in his inner ear and mind, the correct sound and terrific performance was naturally in place. At the same time, I had play very simple melodies with the small violin - 1/4 size or so. Because the small child did not have enough finger power to play the violin, he used only two fingers of his left hand to play. Someday he would have enough muscle strength to use of all the fingers.

— **How did it work?**

The results were incredibly better than I expected. That child played "Violin Concerto No.3 by SEITZ" at age seven. When he was 11, he won first prize at the Mainichi competition. Later he became a great violinist: his name is Toshiya Eto. Koji Toyoda, who used to be the concertmaster for the Berlin Broadcast Symphonic Orchestra and who is now a professor at Berlin Art College, was also my student. He played Humoresque by Dvofák when he was three.

— **Nejiko Suwa, Yuriko Kuronuma, Yoko Sato and etc. they were your students, too?**

Yes, they were. They all became highly praised violinists. But please understand my purpose. It is not special education for the gifted. Some people claim that the Suzuki Method is special education in order to product geniuses. It's not true. Mr. Eto and Mr. Toyoda became professional musicians. They differed from other Suzuki students in that they both had continued to deeply love music and kept their passion for music after they grew to adulthood.

— **Do we need to start playing instruments**

from infancy?

Yes, actually, little children can't play anything, but their mental sensitivity and enjoyment will grow. so I think the ideal way to start is immediately, after they are born being playing.

The sooner the better. My student's sister, who is 5 months old, smiles happily as she moves to the rhythm of Vivaldi's Concerto.

—What about someone who has no sense of music?

Nobody is naturally tone-deaf. I have said to you "Man is a son of his environment.". If a baby was brought hearing the father's singing a lullaby, which was not good, the baby's sense of good singing would not be well-developed. But don't worry, if the baby listens to good music over and over again, he will learn good tone and he rid of his poor ideas of music. It is the same with people who live in Tokyo for more than 3 years, they speak with a Tokyo accent.

—It is too late for adults, isn't it?

Not at all. Suppose you get rid of your poor musical concepts, age doesn't matter. Perhaps it is difficult to become a violinist and the like. But you can do it, I was 17 years old when I started playing violin first.

—You were late to start violin, weren't you?

Yes, my family managed a violin manufacturing company, when I was child, I never dreamed I would play violin. I had been thinking of continuing in family's company after graduating from a business school.

It happened when I was 17, my father bought a gramophone, and I heard Schubert's "Ave Maria" performed by Mischa Elman.

How sweet the sound of his violin was! It was made a tremendous impression on me, and I have been with the violin ever since.

—Did you study by yourself?

Yes, I did at the beginning. I simply moved the bow trying to find the same tone that I heard in the record. I had my first teacher when I was 21. Marquis Tokugawa, who lived in the same prefecture as my

family, encouraged my study and taught me. He eventually introduced me to Ms. Kou Ando, the younger sister of Miss Rohan Koda, with whom I studied in Tokyo.

—I hear that you had studied music in Germany.

Yes, I did. This was advised by Marquis Tokugawa, as well.

He suggested that I go to Europe the home of music. I went to Berlin when I was 23. I studied music under professor Klingler who was teaching at the Berlin music school. I asked to join his pupils. I am thankful to him for giving me private lessons for 8 years. Moreover, I was invited to various of home concerts. I soaked myself in music every day during those years.

—So you became a son of your environment, didn't you?

I'm sure I did. I was in a favorable environment: I went to piano concerts, operas, etc. 5 times a week. You know, cheap concert tickets were available in Berlin at that time.

Moreover, I was fortunate to meet wonderful people such as Dr. Einstein, famous for the theory of relativity. I clearly remember that his saying "There is no difference between an Oriental and a Westerner".

—What did he mean ?

After a woman listened me playing violin during his home concert, she asked him "How on earth can a Japanese appreciate the soul of Western music?" It was then that he made his reply which so deeply impressed me. It was because of her question and his response that I found that one can play a musical instrument not with inhaled talent, but with diligent work excellently; enough to impress a German. In addition I was encouraged by his words "Human beings are equals." I can say that the origin of my principle "Man is a son of his environment" was born here.

—Since returning to Japan, have you devoted all your time to Talent Education?

Yes, I have. Except for World War II, and when

I organized the Suzuki Quartet along with my brothers and we were traveling giving recitals, I have always taught violin.

I teach pupils not only to develop their violin skill but also to develop their talent, that is to be people who can appreciate the heart of beauty. Through my work I want to prove the truth in my statement: "Every child can be made to grow by means of education". I will keep saying and proving this philosophy as long as I live.

—As long as you live?

Ha! Ha! Don't be so surprised.

I decide my age-limit is 120. Well, I have had no other idea in my retired life since I have been in the educational field.

It's truly that I am a son of my environment, right?

This article is from "Serai", published by Shogakukan, December 16th, 1993 issue. This article is reprinted with the kind permission of the Serai Editorial Department.

(Interviewer: Nobuyuki Nezu)

本日唱和する小林一茶の俳句100句

本日は3,000人の出演生徒全員で、小林一茶の俳句を100句唱和します。これは次のねらいから、鈴木鎮一会長が選んだ俳句を使って行います。

- 早い時期から一茶の童心あふれる俳句に親しみ、心を豊かにする。
- 俳句の季語に接することで、四季の移り変わりを感じとる。
- 俳句に使われている、美しい日本の言葉の響きを知る。
- 五七五という幼児でも覚えやすい文で、記憶能力を高める。

本会では、各教室や各家庭で俳句テープ、俳句カルタを使って、子供が遊びながら学習するように指導しております。

絵：黒崎義介
書：秋山貴美子



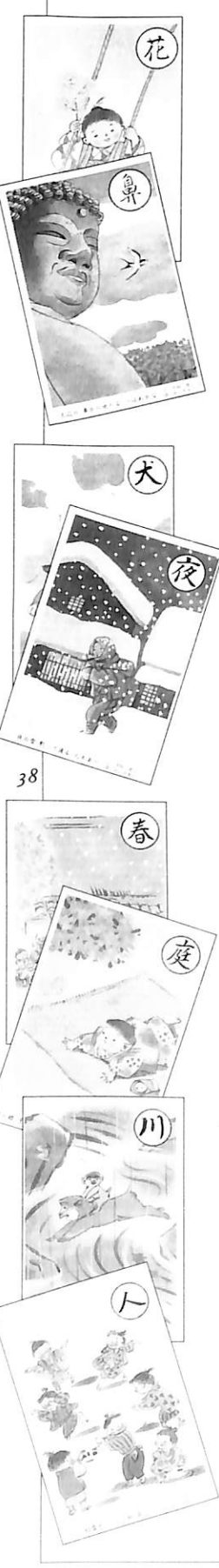
60 菜の花や かすみの裾に 少しずつ
61 ちよんぼりと 富士の小脇の 柳かな
62 涼しさに ぶらぶら下がる 毛虫かな
63 足元へ いつ来たりしよ かたつむり
64 霜がれや 米くれろとて 鳴く雀
65 雪どける 解けると鳩の 鳴く木かな
66 おらが世や そこの草も 餅になる
67 たのもしや てんつるてんの 初袷
68 つく羽根に 転びながらに 一つかな
69 信濃路や 山の上にも 田植笠
70 本町を ぶらりぶらりと 螢かな
71 大の字に 寝て涼しさよ 淋しさよ
72 すす払い 藪の雀の 寝所まで
73 松陰や ござ一枚の 夏座敷
74 身の上の 鐘と知りつつ 夕涼み
75 じつとして 馬に軒るる 蛙かな
76 寝返りを するぞそのけ きりぎりす
77 秋風に 歩いて逃げる 螢かな
78 路の葉に ぼんと穴あく 暑さかな
79 昼飯を ぶらさげて居る かかしかな

80 母馬が 番して吞ます 清水かな
81 浮き草や 浮世の風の いうなりに
82 むさし野や 水溜りの 富士の山
83 寝た犬に ふわとかぶさる 一葉かな
84 秋風や むしりたがりし 赤い花
85 牛の子の 顔をつんだす 椿かな
86 庭の蝶 子が這えば飛び 這えばとぶ
87 大根引き 大根で道を 教えけり
88 よし切りや 一本竹の てっぺんに
89 さあござれ ここまでござれ 雀の子
90 茸がりの から手でもどる 騒ぎかな
91 はなやかに 朝日のかかる 野菊かな
92 日の暮れに 風の揃うや 町の空
93 ふるさどや 餅につき込む 春の雪
94 雪ちらり ちらり見事な 月夜かな
95 手に足に おきどころなき 暑さかな
96 暑き夜や 子に踏ませたる 足のうら
97 のどけさや 浅間のけぶり 昼の月
98 睦まじき ふた親持ちし 雀かな
99 浮世とて あんな小鳥も 巣を作る

100 桐の木や てきばき散つて つんど立つ
99 秋の夜や 窓の小穴が 笛を吹く
98 名月や 膳に這いよる 子があれば
97 石仏 誰が持たせし 草の花
96 梅の木 心静かに 青葉かな
95 六十年 踊る夜もなく 過しけり
94 ともかくも あなた任せの 年の暮
93 焚くほどは 風がくれたる 落葉かな
92 このように 枯れてもさわく すすきかな
91 朝霜や しかも子どもの お花売り
90 投げ出した 足の先なり 雲の峰
95 五月雨や 肩など叩く 火吹竹
94 露の世は 露の世ながら さりながら
93 散ちれ くり枕を 負う子供
92 吹きやられ 吹きやられたる こ蝶かな
91 頬べたに 当などしたる まくわかな
90 めてたさも 中位なり おらが春
89 小さい子が 草背負けり 五月雨
88 うす壁に ずんづと寒が 入りにけり
87 こう生きて いるも不思議ぞ 花の陰

20 猫の子の ちよいと押える 木の葉かな
19 露の葉に 飛んでひつくり 蛙かな
18 草の葉に かくれんぼする 蛙かな
17 日本は 這入口から 桜かな
16 ぶらんこや 桜の花を 持ちながら
15 雪どけて 村いっばいの 子どもかな
14 初雪や 一二三四五六七八
13 やせ蛙 負けるな一茶 これにあり
12 大仏の 鼻から出たる つばめかな
11 鶯や ちよつと来るにも 親子連れ
10 春雨や 猫に踊りを 教える子
9 口あけて 親待つ鳥や 秋の雨
8 這え笑え 二つになるぞ 今朝からは
7 洪柿と鳥も知って 通りけり
6 柿の木で あえと答える 小僧かな
5 やれ打つな 蠅が手をすり 足をする
4 朝顔の 数える程に なりにけり
3 夜の雪 黙って通る 人もあり
2 うまそうな 雪がふわり ふわりかな
1 紫の 袖にちりけり 春の雪

40 三日月や ふわりと梅に 鶯か
39 わんぱくや 縛られながら 呼ぶ螢
38 春風や 牛に引かれて 善光寺
37 大井川 見えてそれから 雲雀かな
36 ゆうぜんど して山を見る 蛙かな
35 大螢 ゆらりゆらりと 通りけり
34 子を負うて 川越す猿や 一しぐれ
33 年とえば 片手出す子や 衣更
32 鶯が ちよいと隣の ついでかな
31 馬の子や 横にくわえし 草の花
30 雀の子 そのけそこのけ お馬が通る
29 団栗の 寝んねんころり ころりかな
28 名月を 取つてくれろと 泣く子かな
27 木曾山に 流れ入りけり 天の川
26 茶の花に かくれんぼする 雀かな
25 我と来て 遊べや親の ない雀
24 春雨や 雀口あく 膳の先
23 梅咲けど 鶯なけど 一人かな
22 のみの跡 数えながらに 添え乳かな
21 うつくしや 障子の穴の 天の川



'94年のあゆみ

社団法人 才能教育研究会 第24回 関東地区ピアノ科卒業式



ピアノ科卒業式(3月20日~31日)

関東・関西・東海・甲信の4地区で盛大に行われ
7400名を越える生徒が卒業証書を手に入れました。

鈴木鎮一先生、95歳祝祭コンサート(5月1日)

●鈴木先生がお元気に95歳を迎えられたのを祝い
して盛大なコンサートが東京のサントリーホール
で開かれました。(左下)

●才能教育出身の演奏家の方々が大勢出演され、独
奏や弦楽合奏を披露して下さいました。(右下)



全国指導者研究会(5月9日~12日)

●全国から330名の先生方が一同に会し、毎日鈴木先生のレ
ッスンを受け、トナリゼーション、指導法の研究を深め
ました。

●昨年に引き続き今年もベルリン芸術大学教授の豊田耕児
先生による弦楽合奏の指導が行われました。



第45回夏期学校(7月25日~8月2日)

第16回ピアノ科夏期学校(8月2日~5日)

猛暑の中1500名近い生徒が参加して熱心なレ
ッスンやコンサートが繰り広げられました。



第19回チェログランドコンサート(11月13日)

全国から550名の生徒が参加して 松本文化会
館大ホールで盛大に行われました。今回はは
じめてオーケストラ伴奏で演奏した3曲のコン
チェルトは大変好評でした。



第30回海外演奏旅行(アメリカ)(9月末~1ヶ月)

記念すべき第30回海外演奏旅行の一行はア
メリカの13都市でコンサートとワークショップ
を行いスズキ・メソッドの奏法と音を伝える
ことに大きな役割を果たしました。



'95年のスケジュール

〈ピアノ科卒業式〉 甲信地区 3月21日(火) 才能教育会館
関東地区 3月28日(火) 中野・サンプラザホール
東海地区 3月30日(木) 愛知厚生年金会館
関西地区 3月31日(金) 大阪厚生年金会館

※3月31日に予定されていた関西地区ピアノ科卒業式は、阪神大震災のため、中止になりました。

〈第14回ピアノ科コンサート〉 3月24日(金) 東京・銀座ヤマハホール

〈海外演奏旅行30周年・記念コンサート〉 3月12日(日) 松本市音楽文化ホール

〈全国指導者研究大会〉 5月29日(月)~6月1日(木) グランドホテル浜松

〈ピアノ研究グループ講師研究会〉 6月1日(木)~2日(金) グランドホテル浜松

〈第46回夏期学校〉 前期 7月25日(火)~7月29日(土) 松本
後期 7月29日(土)~8月2日(水) 松本

〈第17回ピアノ科夏期学校〉 8月2日(水)~8月5日(土) 松本

〈第31回海外演奏旅行〉 未定

〈第20回チェログランドコンサート〉 未定



INTERNATIONAL SUZUKI ASSOCIATION INC.

Office of the Chairman of the Board
3-10-15 Fukashi Matsumoto City
Nagano-Ken 390 JAPAN
(0263)33-7710 FAX(0263)36-3566

スズキメソッドで世界を結ぶ 国際スズキ協会

国際スズキ協会理事長
高橋利夫

当協会は世界中のスズキ協会の情報及び管理センターとなるべく、1983年アメリカテキサス州ダラスに本部をもつ公益法人として発足しました。1988年6月より松本に本部事務局を移して活動しています。

1990年5月当協会は鈴木先生より指命されて、全世界におけるスズキの名に基づく商標とサービスマークに関する独占的な管理権をもつ唯一の正式な協会となりました。この為全てのスズキ協会は大陸あるいは国単位でISAの会員になることが法律的に要求されることとなります。

ISAの目的は、スズキメソッドの国際的普及と交流活動を通じて世界文化の向上と世界平和に寄与することです。

この目的を達成するために主に次のような事業を行います。

1. スズキメソッド世界大会及び国際大会を決定し、後援する。
2. 世界各地におけるスズキ指導者養成研修コースの開催。
3. 新しい国における、スズキ協会の設立援助
4. 国際スズキ指導者免許証の審査と発行
5. スズキの商標・サービスマークの保護と管理
6. スズキの指導者養成機関の援助
7. 奨学金による内外スズキ留学生の援助
8. ジャーナル、ニュース、指導者名簿の発行、及びスズキ関連の著作物、ビデオ、CD等の頒布

21世紀は生命で感性の時代と言われています。愛の環境の中で子供達の生命力に働きかけて感性を育てようとするスズキメソッドはまさに21世紀の象徴的な教育法です。

これ迄音楽教育史上有名な教育法はダルクローズ、コダーイ、オルフでした。しかし1965年頃からアメリカで爆発的な反響を呼んだのがスズキメソッドです。しかもメソッドそのものを数多くの幼児により完璧な迄に実証して見せたのはスズキメソッドだけです。

今日欧米の音楽大学の学生の8割方はスズキで教育された学生になってきました。今迄日本人は世界に対して何ら精神的な貢献をしてこれませんでした。スズキメソッドこそ我々日本人が世界に貢献できる誇りうる唯一のソフトとなるでしょう。

このスズキメソッドを発祥地である日本から世界に広げようという全人類的な運動を推進するのが国際スズキ協会の役目であり使命です。スズキメソッドの本山として日本の会員の皆様の御協力によって、この運動を永年にわたって推し進めることができました。

鈴木先生の悲願である「どの子も育つ、世界の教育革命」の実現の為に今後共一層のご支援をお願い致します。

The International Suzuki Association aiming for the world family by the Suzuki Method

Toshio Takahashi
Chairman of ISA

The International Suzuki Association was founded in 1983 as a non-profit organization in Dallas, Texas, in order to serve as an information and coordination center uniting various Suzuki Associations throughout the world.

In Japan, 1988, the headquarters moved to Matsumoto city. The ISA has been designated by Dr. Suzuki as the sole authorized organization which can grant rights to the use of his name, trademarks, and service marks on his name.

Under these circumstances, all Suzuki Associations are legally required to join the ISA as regional or country association members. The ISA is dedicated to the purpose of improving world culture and peace through the international development, promotion, and propagation of the Suzuki Method.

In order to achieve its goals, the following are the established priorities of ISA:

1. Decide?? and sponsor the Suzuki World Convention and International conference.
2. Hold teacher training workshops in various parts of the world.
3. Provide assistance for every country to establish a national Suzuki Association.
4. Evaluate and issue international Suzuki teacher certificates.
5. Protect and control Suzuki trademark and servicemark.
6. Support Suzuki teacher training centers.
7. Support domestic and foreign Suzuki students with scholarships for continued training and study.
8. Translate and publish Journal, newsletter, teacher directory, and Suzuki literature.

It is said that the 21st century is the age of life force and sensitivity. The Suzuki Method, which can nurture children's sensitivity by working on their life force is really a symbol of the 21st century educational method.

Previously, there were only 3 famous people in the fields of modern music education: Emile Dalcroze, Zoltan Kodaly, and Carl Orf. Since 1965 Dr. Suzuki has appeared on the music scene and created an explosive sensation in the U.S.A. with his method of teaching music to children beginning at a very tender age. Dr. Suzuki alone has proved his flawless methodology by successfully teaching music to large numbers of very young children.

Recently, the major music schools in the world have become filled with students whose early education was in the Suzuki Method. This is persuasive proof that the Suzuki Method is correct and indispensable in music education. Historically it may seem that Japanese contributions to the world community have, in the past, lacked a certain spirit of brotherhood and good will.

However, the Suzuki Method is a unique contribution of which we can be proud: it is ISA's duty and mission to promote this humanitarian movement. It is our mandate from Dr. Suzuki to enlighten the world to his "educational revolution", eloquent testimony to the Japanese commitment to international unity through talent education for all children.

ISA has depended almost exclusively on its Japanese members for funding various international activities. I greatly appreciate their financial support, and appeal to everyone for their continuing support and cooperation as we face the future together in bringing this revolution in education to the world.

座談会——“音楽を続けてきて…”

現在では全国各地でアンサンブルが活発になってきましたが、長い伝統を誇る品川弦楽団の練習場を訪ねて、指導者の印田礼二先生と、6人の大学生の皆さんに、いろいろと話して頂きました。

出席／印田 礼二
浅田 美穂 (慶応義塾大学1年)
小原 幸絵 (電気通信大学4年)
加藤 亮 (慶応義塾大学1年)
栗原 顕 (東京医科歯科大学1年)
澤崎 洋和 (早稲田大学4年)
清水 充 (慶応義塾大学1年)
司会／鈴木 望
白鳥 文恵

①バイオリンを始めたきっかけ

—まず最初に、皆さんがバイオリンやチェロを始めたきっかけを、話してもらえますか？ じゃあ、澤崎さんから。

澤崎 僕は親にすすめられて、入会した訳ですけど……。

—何才ぐらいの頃？

澤崎 6才ぐらいだったかなあ…



澤崎洋和さん

—清水さんは？

清水 ウチは、兄も才能教育でバイオリンをやってみて、それでいつの間にか…(笑)

—はじめてた訳？

清水 そうなんです。 (笑) やりたいなんて言った覚えは、ないんですけど…(笑)

—じゃあ、加藤さんは？

加藤 ウチの場合は、母が本当にバイオリンが好きで、子供にたぶん習わせたいと思って始めたんだと思うんですけど…。

—栗原さんは、誰の影響？

栗原 僕のイトコが才能教育でやっていて、イトコが弾いているのを見て、小っちゃい頃、僕もやりました。

い…と言ったらしいんですけど…。

—何才ぐらいの時？

栗原 たぶん、3才ぐらいだったかなあ…。

—じゃあ、今が大学1年だから、もうかれこれ16～7年は、やってる訳だね。

栗原 でも、途中3～4年、抜けてるんですけど…。 —それは、受験勉強とか、そういう事で中断したの？

栗原 いえ、小学校の頃、アメリカに行ってたものですから…。渡米先で、先生が見つからなくて…。 —さすがに、印田先生のクラスは、中断する理由が違いますね。(笑)じゃあ、次に小原さん、話してくださいませんか？

小原 自分じゃわからないんですけど、気がついたらやってて、やっている事に疑問も感じなかった…っていうのが、正直なところかな。でも、だからと言って、家族や親戚に音楽家がいるとか、音楽的な環境があった訳ではないんですけど…。

—お兄さんやお姉さんが、バイオリンをやってた…っていう事はなかったの？

小原 兄はバイオリンを習ってましたけど、それ見て、いいな…って思った記憶もないんですけど…。

—じゃあ、浅田さんの場合は？

浅田 私は、本当はバイオリンじゃなくて、ピアノが習いたかったんですよ。(笑)でも家の関係で、ピアノが置けなかったの、バイオリンを始めたんですけど…。

—でも、今じゃバイオリンで良かった…って思ってるでしょう？

浅田 そうですね…。バイオリンだと、皆と合奏が

出来ますからね。でも、やっぱりピアノも習いたかったな…(笑)

②やめたくなった時のこと

—品川が、とてもいい支部だからかもしれないけど、皆、レッスンを中断したりしないでしょ？ レッスンがイヤになった事のある人、いる？ 約1名いますね。(笑)じゃあ、これからの質問は、清水さんに集中的にいきますね。レッスンはイヤになったっていうのは、いつ頃の話？

清水 そうですね…。小学校4年から6年にかけてですね。

—それは、やっぱり遊びたかったから？

清水 ええ…。すごく、イヤだったですね。

—おけいこは、どのくらいしてたの？

清水 いやあ…。ほとんどやらない状態で…。(笑)



清水 充さん

親にも、すごく怒られてました。

—練習しなさい！って…？

清水 ええ…。毎日どうやったらレッスンに行かなくていいかって…、そんな事ばかり考えてましたね。

—じゃあ、小学校の4年から6年にかけて、3年間も考えてたの？(笑)

清水 そうですね…。

—で、結論は？

清水 結論は、やっぱり行かなくちゃダメだ…。(笑)ということになって…。

—中学・高校時代は、順調だったの？

清水 ていうか…、中学校ぐらいから楽しくなったんですよ。弦楽団にも、その頃から行きはじめて…。

—アンサンブルが面白くなったっていう話だけど、小学校の時は、参加した事、なかったの？

清水 2～3回、行かされた記憶はあるんですけど、その時は、ちょっと絶え難いなあ…なんて思っちゃって。(一同爆笑)とにかく、小学校の時は野球が楽

しくて、ずっとそっちばかりやっていたんですけど、中学に入って野球をやめて、塾へ通うようになったら、今度はバイオリンが楽しくなっちゃったんですよ。何か、変ですか？(笑)

—変じゃないよ、面白いよ。他に、そういう経験のある人、いますか？ 加藤さんは…。

加藤 小さい頃は、別に好きでもなかったし、嫌いでもなかったし、やるのが当たり前っていう感じだったと思うんですけど、途中やっぱり嫌いになったり、好きになったりっていうのはあったけど、やめたい…と思った事はなかったと思います。特に、アンサンブルをやるようになってからは…。

—加藤さんは、いくつぐらいからアンサンブルに参加したの？

加藤 たぶん、小4か小5ぐらいだと思うんですけど…。でも僕の場合、小学生の頃は、月に1度、決



加藤 亮さん

まってるから練習に参加するっていうだけで、アンサンブルの楽しさなんていうのは、まだわからなかったと思いますね。それが中学ぐらいからは、アンサンブルに参加することによって、友達関係が広がるのが楽しかったし、レッスンと違った面白味っていうのもあったから。それから、皆で合わせて、上手くいった時っていうのは、本当に嬉しいですよ。 —うん、うん…。わかる、わかる…。

加藤 やっぱり、一人で上手く弾けた時よりも、仲間と一緒に上手くいった時の方が、喜びも大きいですね。だから、バイオリンを始めたきっかけというのは、親に無理やりだったと思うんですけど、今はやっぱり、親に感謝してますね。

③楽しかった思い出

—今度は、楽しかった思い出っていうのを聞きたいんですけど…。

浅田 楽しかった思い出とはちょっと違うけど、自

分の中に、これだけは人に負けないぞ…っていうのが1つある人っていうのは幸せだと思いますね。学校の勉強とか、いくら頑張っても、いつも1番とれる訳じゃないし…。でも勉強は1番じゃなくても、バイオリンだったら誰にも負けない…っていう気持ちがね、すごく自分にとってはプラスだったと思います。

—自分の、自信の裏付けになるのがバイオリンだった？

浅田 だから、バイオリン習っていて、本当によかったと思います。



浅田美穂さん

—小原さん、今まで楽しかった事について、どうですか？

小原 やっぱりアンサンブルに参加して、学校以外に、年上の人も年下の人も、もちろん同級生の人も、いろんな所に住んで、いろんな人と友達になれたっていうのが、一番楽しかった事かなあ…。皆と一緒に、アンサンブルをすれば、結果的に1つの音楽が出来て、合奏する楽しさもわかったし、もちろん遊ぶことも楽しかったですね。

—品川支部の弦楽団って、皆、仲がいいんだよね。じゃあ、澤崎さんはどうですか？ 今まで、チェロをやって…。

澤崎 基本的に、チェロが自分の性格に合ってたっていう事が、1つありますね。それからカルテット(弦楽四重奏)を始めてから、音楽が広がったっていうか…。

—今でも、週に1度くらいカルテットの練習をしてるの？

澤崎 そうですね。今はやっぱり、1人で弾いたり、オケで弾いたりするよりも、カルテットの時が一番楽しいですね。

印田 彼の回りには、いつも6~7人彼の仲間がいてね、誰かが都合が悪い時はお互いに交代してね、

でも彼はいつもチェロ弾いてるんだけど…(笑)

—へー…、そういう仲間がいるって、最高だね。

ところで清水さんは、学校のオーケストラで弾いてる訳だけど、“音楽やっててよかったな…”と思う瞬間が、今まであった？

清水 そうですね…、オーケストラっていうのは大学へ入ってから初めて経験したんですけど、それまでは弦楽団が一番大きな所帯だったわけですよ。で、オーケストラに入って、管楽器や打楽器の人達と一緒に最初の音を出した時にね、もの凄く感動しましたね。涙が出そうになったっていうか…。

—その気持ち、訳るなあ…。栗原さんは？

栗原 昔は、合宿とか弦楽団とかで皆で弾いて、合わせるのが楽しかったですね。でも最近一人で弾いていて、自分が思ったように弾けるとすごく充実感を感じるように、なってきたような感じですね。



栗原 顕さん

—加藤さんは、どう？

加藤 僕の場合は、自分が上手く弾けた時が一番嬉しいんですけど…。

—発表会でソロを弾いたりとか？

加藤 ええ、それもありますけど、今、結構回りにいる人達が上手いじゃないですか。だから、その中で演奏していると自分も上手くなった錯覚に落ち入るっていうか…(笑)皆で弾いていても、一人で弾いていても、自分で“いいな！”って思えた時が、やっぱり最高ですね。

—浅田さんは、何かありますか？

浅田 私は高校の時に1年間留学していたんですけど、入学式の前に学校へ行った時はそれこそ全然しゃべれなくて、友達も一人も作れなかったんですけど、入学式の時に、バイオリンを全校生徒の前で弾かされたんですよ。そうしたら、皆が声をかけてくれて…。だから多分、“あいつはしゃべれないけど、バカじゃないんだ…”っていうのが皆に分かつ

てもらえたんじゃないかな。

—要するに、皆に認められたと…？

浅田 よくわからないですけど、興味を持ってもらえたというのは、事実ですよ。

—小原さんは…？

小原 この間、久しぶりに支部の合奏会にお手伝いとして参加したんですけど、小っちゃい子供が一生懸命バイオリンを弾いてる姿を見てたら、すごく感動しましたね。自分も昔は、こんな風に一生懸命やってたのかな…なんて思っ

④音楽が私に与えてくれたもの

—皆はさあ、何か立ち上がれない時とか落ち込んでいる時に、音楽を聞いて、頑張ろう…なんて思ったこと、ない？

印田 加藤君のお母さんが、おっしゃってましたけ



小原幸絵さん

ど、彼は浪人中、ずっとバイオリンを熱心に弾いてたって…。

加藤 それは弾きましたけど、でもやっぱり僕の場合は勉強からの“逃げ”(笑)っていうか…。もちろん好きだから弾くんですよ。でもやっぱり、嫌いな事からの逃避だったと思いますよ。

—加藤さんは、落ちこんだりした事はないの？

加藤 大体、僕、落ちこんだっていう経験がないから…(笑)

—そうだろうね。訳るよ…(笑)

印田 顕ちゃんは浪人中、どんな気持ちでバイオリン弾いてたの？

栗原 楽しかったですね、浪人中バイオリンを弾くのは…。気分転換にもなったし…。やっぱ、つまらないですからね、浪人生活は…。

—浪人っていうのも、いいんだけど、誰か好きな人にフラれて落ち込んだ経験のある人は、いないの？

印田 それは、やっぱり、清水君だね。(笑)

—失恋した事、あるの？

清水 ありますよ…。

—そういう時、どんな音楽を聴いたの？

清水 僕、もともと暗い曲が好きなんですけど、そういう時は思いっきり自分を悲劇の主人公に仕立てて、暗い曲を聴いてましたけど。

—例えば…、チャイコフスキーとか？

清水 悲愴とか…(笑)、フォーレのバヴァーナとか、モーツアルトのレクイエムとか…。暗いでしょ？

⑤親に感謝している？

印田 こちらのお母さんが、以前“母の会”で話して下さった事があるんですけど、彼女は小さい頃、お母さんは一生懸命やらせたかったんだけど、彼女は嫌がってた訳。で、彼女が高校に入った時、お母さんに言ったんだって。“何で、もうちょっと一生懸命おけいこさせといてくれなかったのか！”って。お母さんにすれば、嫌がって逃げ回ったのに…っていう思いもあるんだけど、だから、本当に感謝される時があるんだから、ヤメないで続けさせてあげて…という話を、若いお母さん達の前で、して下さいましたけど。でも、確かに感謝するよね、ここまで続けてると…。

—本当に親って偉いよね。ボーナスなんかもさあ、自分のために使わずに、子供の楽器とかを買ってくれるんだもん。最近つくづく、親って偉いなあ…って思うよ。

小原 今はやっぱり、親に感謝してますね。私なんか、家であんまり練習もしなかったし、それで上手



印田礼二先生

い訳でもないし、月謝も払ってくれて…。

—高い月謝をね。(笑)

小原 (笑)高い月謝も、それなりの楽器も買い与えてくれて、でもバイオリニストになる訳じゃないし、オーケストラに入る訳でもないし、第3者の目から

見たら、何か“道楽”にしか過ぎないのに、にもかかわらず、親はそうやって続けさせてくれたってことに、今はもの凄く感謝してますね。

—やらないなら、とっととやめちゃいなさい！っていう親もいるからね。親に、ヤメなさい！って言われた事のある人、いる？…いない！

澤崎 やめたいんだったら、やめてもいいんだよって言われた事がありますけど…。

—でも、やっぱり続けさせてくれたって事は、凄いことだよな。

⑥スズキメソードについて

—皆は、スズキメソードについて、どう思っているの？ スズキメソードしか知らないから、比較も出来ないかな？

浅田 先生がいいと思いますね。先生のはずれがない…(一同、どよめく)友達の話なんか聞くと、本当にひどい先生とかいるから…。例えば、レッスンしながらお弁当食べちゃうとか…。詐欺みみたいな先生もいるし…。でも才能教育の先生は、ちゃんと研修会なんかもあるし…。

—さすが、品川支部ですね。(笑)加藤さんは、何かありますか？

加藤 本当に僕は、スズキメソード以外は何も分からないから、比較のしようもないんだけど、でもとりあえず今、自分でバイオリンをこれだけ弾けて、趣味なのに凄いな…と。

—要するに、小さい頃からプロを目指して、1日3～4時間練習した…という訳じゃないのに、今これだけ弾けるのは凄いなじゃないかと？

加藤 そうですね、絶対にスズキじゃなかったら、こんなに早いペースでここまで来ないと思うんですよ。

印田 やっぱり耳から入るっていうか、レコードを聞きなさい！ばかりじゃなくて、合奏会があったり、合わせがあったり、常にバイオリン教室に行っている限り前後の人も聞いたり、いつもどっかからバイオリンが聞こえてくる…っていう雰囲気は、品川支部にはあるよね。だから、そんなに練習した記憶もないけど、いつ始めた記憶もないけど、いつの間にかここまで来ちゃって、でアマチュアなんだけど大学のオケなんかに入ると、割と“お、凄いな…”っ



みんなで記念撮影

という目で見られる程度には…っていう意識はない？(笑)

加藤 そういうのは、ありますね…。

—才能教室育ちは、音がいいって言われるんだけど、そんな事、オーケストラで感じた事ない？

浅田 割と、才能教育出身の人って、しっかりした音を出しますよね…。他の人は、ふにゃふにゃしてたり、スカスカの音だったりする人が多いけど…、うーん…。

—いいんだよ、言いたい事言って。どうせ、関係者しか読まないんだから…(笑)

加藤 僕は、オケのトレーナーから、感性は凄くないから、それを大切にしなければ…って言われた事がありますよ。

印田 とにかく、ここまで続けてきたっていうのは、やっぱり大きな財産だよな。そう思わない？

清水 そうですね…。

—じゃあ、その大きな財産を大切に、社会に出てからもね、社会の役に立てるような、リッパな大人になって下さいね。ちょっとカッコつけすぎかな…(笑)

コンサートスタッフ

●大会委員長 本多 正明

●大会副委員長 藍川 安隆 広瀬 八朗

●実行委員会

〈委員長〉 寺田 義彦

〈副委員長〉 藍川 政隆 大坂 和彦

千田 成子

〈委員〉 青木 美知子 今村 直子

小椋 千夏 草薨 薫

佐々木 弘明 清水 尚志

白鳥 文恵 鈴木 望

飛永 信康 長坂 美弥

野口 美緒 早川 薫

藤谷 美穂 諸永 潤

〈広報担当〉 正岡 絃子 山田 裕子

●関東地区支部長会

〈幹事長〉 山本 和人

〈幹事〉 荒木 紀子 上山 光義

大川 富美子 大西 裕之

小野 美智代 亀井 美栄子

後藤 芳子 平岩 恵子

石川 咲子 木下 麻子

佐古 玲子

●ピアノ伴奏

鶴岡 佐代子 三木 紀子

●アナウンサー

諸永 潤

●賛助出演(箏) 正派邦楽会

総裁・家元 中島 靖子

●編集・印刷 凸版印刷(株)(江藤 秋水) 03-3968-5214

(株)電算印刷(高山) 03-3294-8094

●プログラムデザイン (株)ケイアンドエープロモーション

雨村 秀行 045-321-1175

●音響設営 (株)イーストウェーブ(今岡) 03-3381-6226

●会場設営 (株)ムラヤマ(犬伏) 03-3813-1204

●照明設営 (株)共立(志村) 03-3469-1504

●翻訳 河野 由起子 駒崎 由美
林 美穂 丸山 絹子
Mrs. Joyce Nelson

●大会テーマ 田中 陽子

●キーチェーンデザイン 萩原 香織

●Special thanks 細川 博(才能教育編集部)
河野 由起子(国際スズキ協会)
小学館“サライ”編集部

事務所所在地

社団法人 才能教育研究会

本部

〒390 長野県松本市深志3-10-3

TEL 0263(32)7171

東京事務所

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-9

主婦の友文化センタービル4F

TEL 03(3295)0270

聖蹟桜ヶ丘センター

〒206 多摩市関戸4-24-7 第1 清和ビル5F

TEL 0423(73)7481

中野支部事務所

〒164 東京都中野区中野2-23-1 ニューグリーンビル201

TEL 03(3381)9552

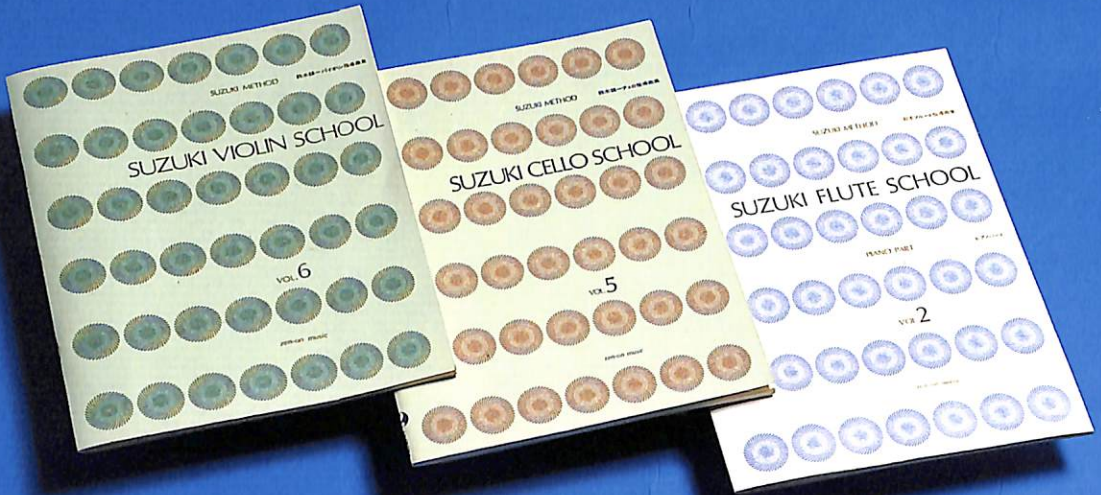
東海事務所

〒461 名古屋市東区東桜1-10-3 則武ビル6F

TEL 052(951)1352

どの子ども育つ 育て方ひとつ

世界に誇る SUZUKI METHOD



SUZUKI VIOLIN SCHOOL

鈴木鎮一バイオリン指導曲集 【全10巻】

鈴木鎮一著 (社団法人才能教育研究会会長)

①～⑥各¥2,600 / ⑦・⑧各¥3,200 / ⑨・⑩各¥1,700 (①～⑧CD付 / ⑨・⑩CDなし)

SUZUKI CELLO SCHOOL

鈴木鎮一チェロ指導曲集 【全8巻】

才能教育研究会編 ①～⑧各¥1,500

SUZUKI FLUTE SCHOOL

鈴木鎮一フルート指導曲集 【全7巻】

高橋利夫著 ①～⑤各¥2,400 / ⑥・⑦各¥1,300 (①～⑤レコード付)

副教材

五度の教本	¥850
ポジションエチュード	¥800
読譜の練習	¥1,300
ホームコンサート	
①・②	¥1,200
合奏用第2バイオリン	¥750

モイーズとの対話

【おいたちと演奏論】
高橋利夫著 4・6判・208頁 ¥1,800

●鈴木メソッドによるピアノの学習 音楽を超えて

【先生と親子のための手引書】
キャロルL. ビグラー / ヴァレリー・ロイド＝ワッツ共著
細田和枝 / 熊谷周子 共訳
全音判・264頁 ¥3,800

バイオリン奏法

L・モーツァルト著 / 塚原哲夫訳
B5判・202頁 ¥3,000

フルート奏法

J・クヴァンツ著 / 荒川恒子訳
B5判・340頁 ¥5,000

(消費税は含まれていません)